

みなさんこんにちは。このたび校長として着任しました近藤でございます。本日はお忙しい中お越しいただきありがとうございます。

さて、5月になり、美しい花が街を彩る季節となりました。私は花を見ると思い出す言葉がありまして、それは作家の大佛次郎（おさらぎ じろう）さんの「どの花もそれぞれの願いがあつて咲く」というものです。

この言葉を思い出す度に私ども教育に携わっている者がなすべきことはまさに生徒一人ひとりそれぞれの願いが花ひらくよう支援することではないかと思いを新たにします。

4月の赴任以来一か月間学校の様子を見せてもらいましたが、81人の生徒それぞれ個性をもった良い子たちです。

今後生徒のみなさんに自分がどうありたいか、どんな人生を送りたいかということをしかりと考えていただき、社会にどのように貢献するかという見通しを持っていただきたいと思ひます。

したがって本校で私が目指すものは、まず学力はもちろんのこと礼儀やマナー、人づきあいを含めて社会に出て通用する生徒の育成です。そこで、私ども教職員と致しましては一人ひとりの視野や可能性を広げるために日ごろから地域ボランティア参加を促したり部活動を奨励したりするなどとともに、インターンシップや大学説明会といった様々な体験的行事をおこなっていきます。

2点目は本校の所帯は81名と小さなものですが、佐伯ファミリーとして一人ひとりが高校生活を有意義で安全に楽しく送ることができるように取り組んでいきます。面接や相談などを通して生徒から学校生活での悩みや思いを聴き取って行きたいと思ひます。

保護者の皆様と足並みを揃え、大人としてアドバイスをし、間違つた方向に向かっているときは、「いけないことはいけない」と正しい道に導いていきたいと思ひます。そのうえで生徒自身が「なぜこれをするのか」「今していることが将来にどうつながるのか」といったことを考えられるように育てたいと考えております。時には厳しくまた時には寄り添う形で指導を行つて参りますので理解ください。

いずれにしましても学校のしていることは、花を育てることにたとえると水やりや肥料を加えたりするようなもので、しかりとした花を咲かせるには根をささえる土壌が必要かと思ひられます。その役割を果たしているのはそれぞれのご家庭かと思ひます。

この両者がしかりと連携することによって適切な時期に適切な指導をすることが生徒の一人ひとりの願いが花を咲かせるために必要と思ひられます。

その意味におきまして本日の総会並びに、クラス懇談は両者の連携を密にし、お互いの意思の疎通を図る絶好の機会であると思ひますので本日はよろしくお願ひします。